

# idea

## CONNECT × CONNECT

Twitter★[http://twitter.com/#!/center\\_i](http://twitter.com/#!/center_i)

HP★<http://www.center-i.org>

いちのせき市民活動センターニュースレター アイデア

NEWS LETTER IDEA

July

2012

いちのせき市民活動センター情報誌「idea」は、  
NPO・行政・企業の情報発信により、アイデアと  
出合いの機会を創ります。

いちのせき市民活動センター

〒021-0881 岩手県一関市大町 4-29

TEL&FAX 0191-26-6400

Email [center-i@tempo.ocn.ne.jp](mailto:center-i@tempo.ocn.ne.jp)

せんまやサテライト

〒029-0803 岩手県千厩町千厩字町 149

TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

# Vol.04



# 志民のための成長戦略②

## 子どもの発達に合わせた手作りおもちゃを学ぶ

—平成24年6月2日（土）—

この講座は、身近な素材を使って手作りおもちゃ製作に挑戦。参加者同士で声をかけあい、成功体験を感じるといふ目的で開催。成功体験とは、人間は何も出来ない所からスタートし、「あなたは人間的に魅力があつてすばらしい」「生きていていいんだ」「価値ある人間なんだ」という事を知ってもらうこと。講座の中では、以下の2つのおもちゃ作りに挑戦しました。



講師の 認定NPO法人  
日本グッド・トイ委員会  
山口裕美子さん

### おもちゃ製作①

#### 動物福笑い

動物福笑いは、様々な顔を作るにより、子どもの想像力を養います。顔のパーツが描かれた画用紙にそれぞれ自由な画材で着色し、切り取ったものを土台となる顔に並べ、好きな顔を作成。この作業のポイントは、色は大まかに塗る等の工夫をすることにより、小さな子どもが「これなら真似できそう」と思えるような見本を示し、途中で作業を諦めさせないようにすること。参加した子どもは、顔のまわりに様々な風景を描いたり、ふざけた顔を作ったり、先生に「これ面白いね！」「よくできたね！」と褒められ、とても喜んでいました。

### おもちゃ製作②

#### 牛乳パックパズル

牛乳パックパズルは、細かい作業が苦手な人でも簡単に作ることができる、不思議なパズルです。作り方は、使用済みの牛乳パックを切り貼りし、各面にイラストを描いた後に繋ぎ合わせて完成。参加者はパズルの製作中にわからないところや難しいところを聞いたたり、教えあったりし、互いに協力し合って作業に取り組んでいました。



子どもたちは遊びを通し、学び、生きる力を身に付けます。子どもの発達に合わせておもちゃを選び、一緒に遊ぶことで、大人も子どもと一緒に成長していくのだと感じます。講座を終えた参加者から「今後、楽しい制作活動で子ども達のやる気や気持ちをアップさせていきたい。」「『成功体験』が子どもも大人も成長させるといふことを学びました。」などの意見や感想をいただきました。参加してくださったお客様、講師の山口先生、どうもありがとうございました。





## 2 | 志民のための成長戦略② 「子どもの発達に合わせた手づくりおもちゃを学ぶ」

## 4 | 地域コミュニティの活動紹介 川崎8区 館萩自治会

## 5 | 企業の地域づくり （有）げいび観光センター

## 6 | 団体紹介 NPO法人 ワークハウス雲

## 7 | 歩が行く-スタッフの体験レポート- せんまや夢灯りの会

## 8 | 8月のイベント・ボランティア情報

一関市内のNPO法人  
市内31法人が活動中です。

- 1 藤沢町ボランティアセンター
  - 2 北上川流域河川生態系保全協会
  - 3 ケアセンターいこい
  - 4 須川の自然を考える会
  - 5 レスパイトハウス・ハンズ
  - 6 一関文化会議所
  - 7 一関ケアセンター
  - 8 ワークハウス雲
  - 9 里山自然学校 はずみの里
  - 10 全国地域学習振興会
  - 11 北上川サポート協会
  - 12 グリーンハート
  - 13 いわい地域支援センター
  - 14 アートで明るく生きるかわさき
  - 15 障害者への偏見と差別をなくす会
  - 16 サン・スマイル
  - 17 ねこの手クラブ
  - 18 いわてコミュニティファンド
  - 19 千厩まちかどケアセンター
  - 20 いわて発達障がいサポートセンターええ町づくり隊
  - 21 いちのせき子育てネット
  - 22 響生
  - 23 わかば会
  - 24 防災サポートいちのせき
  - 25 とーばんふうどくらぶ
  - 26 生涯支援センター岩手 日向ぼっこ
  - 27 あゆみ
  - 28 子育て支援いっすね
  - 29 ファンスポルト一関
  - 30 北上川流域連携交流会
  - 31 グローバルヒューマン
- (認証順で掲載しています)

### 7月の表紙



この写真は、東山にある「石と賢治のミュージアム」で撮影したものです。

これは昭和6年に東北砕石工場で働く人々を像にしたものです。14人の像の内、奥の右から4番目が宮沢賢治で、彼は当時34歳で技師をしていたそうです。

いちのせき市民活動センターニュースレターideaは、市民活動がアイデアを持ってNPOと行政や企業、市民との出会いの機会を創りだすことを目的とした情報誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や行政情報をお届けします。

地域コミュニティの活動紹介

## 川崎8区 館萩自治会

—つながりとまとまりのある館萩—

自治会長 千葉良雄 様

館萩地域は、川崎でも中山間地に位置し、自然豊かな立地を活かし、昔から畜産を中心とした牧歌的な農村の原風景が残る、ちやっこい町の中でも一番ちやっこい地域が館萩です。30戸106人が暮らす館萩地域での「つながり」と「まとまり」に誇りを持ち、地域の組織や行事について笑顔でお話をしてくださいました。

### 40歳になったら「萩の会」

館萩地域には、「萩の会」という組織があります。20歳以上の有志で構成さ

れる「青年部」で活動していた人が40歳になると加入する組織で、60歳以上になると「福祉高齢部」に加入する仕組みです。同世代の人との親睦を深めるだけでなく、それぞれの組織が行事等で集い、話す事によって、三世代での交流を生み出す事につながります。特に20代の若い人たちは一関市のスポーツ大会などに率先して参加し、数々の賞を受賞しています。川崎町で開催されるEポート大会には毎年参加しており、七福神や紋付袴などの工夫を凝らした衣裳で出場し、パフォーマンス賞を受賞しています。全戸数の住民が月に一回集まる「定例会」を通して、様々な組織の役割分担や行事の話し合い等を行っており、顔の見える関係が、地域の協力的体制の強化に繋がっています。

### 活動の中心「館萩公民館」

一年を通して行事が盛んな館萩地域。その行事は地域の顔ともいえるべき「コミュニティゾーン」とも呼ぶ、公民館と多目的ステージを中心としたエリアで行われます。

岩手大学等の協力を得て取り組んだ「地元学」により整備した、地域の資源

を紹介する「お宝マップ」を作ったり、地域の住民が総出で石垣を整備し、先人達より語り継がれている地域の神様を祀ったりしています。

春にはお花見会、田植え後に行われるさなぶり会、そして毎年8月15日には地域の一大イベントとして定着している納涼盆踊り大会があります。大会は青年部が中心となり様々なイベントが企画され、特にも大会の目玉ともいえるべき豪華な景品が当たる「大抽選会」目当てに町内外から300名を超す参加者が集まったといえます。秋に開催している収穫大感謝祭では、地域おこしの一環として、鹿児島県からわざわざ取り寄せた「桜島だいこん」の種子を全戸に配布し、生育調査を兼ねて栽培してもらい、長年続けているジャンボかぼちゃコンクールと合わせ、大きさや重さ形などを競い合い、野菜の販売を行うイベントも開催しています。

また、地域に古くから伝わる「餅文化」を伝えるため、子どもたちも参加して臼と「せんぼんきぎ」と呼ばれる杵を使い、収穫の秋を迎え天と地に感謝し、長老が歌う餅つき歌に合わせて餅つき体験も行われています。季節を肌で感じる様々なイベントを通して、多くの人の交流が生まれている館萩公民館。エリア内にあ

る多目的ステージは、ふすさと創生事業の助成を受けながら、休みの日を返上して地域住民が総出で作業をし、平成8年に自分達の手で完成させた大切な地域の宝でもあります。取材を行った日は30度を超える真夏日でしたが、そばを流れる河と、木々のせせらぎが生み出す静けさで、なんとも心地の良い場所でした。

### 館萩地域で暮らす人々

「館萩には、こんな活動はもうやめればいいのに、と言う人はいない。みんなに参加してもらい、またみんなが協力的制をとっている。」と語る千葉さん。様々な組織や行事は日曜日に開催されることも多く、高い参加率には地域の結束力の高さが伺えます。「館萩地域の人達は、昔から集まって飲み食いするのが好きな人が多い。」と千葉さん。「小さな地域だが、つながりがある程度意識しているのでまとまり、協力的体制がある。自治会長として先に立って何かをするときに本当に支えられていると感じる。」という言葉からは、地域の人達に対する信頼と感謝の気持ちが伝わってきました。

## ～地域に根差す企業として～

(有) げいび観光センター

代表取締役 佐々木 賢治氏

企画営業部長 大橋 隆夫氏

(写真 右側)

女性初先頭 千葉 美幸さん

(写真 左側)



## 企業の 地域づくり

今回の、企業の地域づくり取材は、地域の観光と守って行くべき地域の宝について、一関市東山の(有)げいび観光センターへお邪魔し代表取締役の佐々木さん、企画営業部長の大橋さんにお話しを伺いました。

### 地域を誇りに思っ てもらえるように

春夏秋冬それぞれ魅力的な表情で私たちの心を癒してくれる猯鼻溪。この絶景の景観維持と観光業務を担っている同観光センターでは、毎年ふるさとを巣立つ町内の中学3年生に舟下りの招待を行なっています。ここ東山には、高校がないため中学までの学校生活や勉学に勤しんだ級友たちとの思い出とともに、「ふるさと猯鼻」をいつまでも心のなかに持ち続けていて欲しいという思いで、昭和63年からこの取り組みを行い、それぞれの進路先でも地元を誇りに思っ  
て欲しいという気持が込められています。また、これからの未来を担う地域の子どもたちへ、職場体験を通し船や川の管理等を教え地域を知ってもらおうということに努力しているとのこと。さらに、旧東山

町地域で発行されている「猯鼻溪舟下り町民パスポート」は世帯に1枚配布され、地元の人であれば無料で舟下りが出来るとのこと。このパスポートを利用し地域住民は、いつでも自分たちの宝を身近に感じることができ、同観光センターも地域住民とのコミュニケーションの一つだと感じているようです。

### 守るべきもの

「猯鼻溪は企業の物ではない。東山地域みんなの宝であり、我々はそれを管理させて頂いているという気持ちです。」と社長の佐々木さんは熱く語ります。日頃の川清掃のほか、毎年7月7日は七夕にちなんで「川の日」とし、徹底的に川や周辺の清掃等を行う日と定め、観光振興会会員と従業員の積極的なその活動が、景観維持や綺麗な川の維持へとつながっているのだろうと感じました。佐々木さんは「時代はデジタル化社会であっても、守らなければならぬ昔ながらの手法や代々引き継がなければならぬ技術・伝統、そういった事を、これからも心に置き、地

### 手と手をつないで

域と一体となりながら運営していきたい」と続けました。船の運行は竿を使った人力のほか、伝えられてきた「げいび追分」はこれからもあの絶景のなか幾年月が流れても変わらずに受け継がれて欲しいものです。

地域との絆を大切にしている同

観光センターでは、東日本大震災発災後、いちのせき市民活動センターと連携し入浴施設・送迎車両の提供など迅速に活動を行ったほか、舟下りチケット代金の一部を義援金として寄附するなど活動を行いました。

「今後はこの地域の良さをもっとたくさんの方々を知っていただけよう。情報発信の徹底と、地域の中心のまだ世に出していないものの発見・発展に力をいれ、益々、東山地域や一関市内の観光という地域貢献活動に取組んでいきたい」と企画営業部長の大橋さんは語っていました。

# NPO法人 ワークハウス雲

## 団体紹介

～基本情報～

代表 渡邊 知子 様

### ◆事業所

町の作業所（弁当屋）

〒029-0302 一関市東山町長坂字町 303

TEL : 0191-47-3335

山の作業所

〒029-0302 一関市東山町長坂字北山谷 261-2

TEL&FAX : 0191-47-2939



ヘルシー弁当 340 円

## ひきこもりの人達や障害のある人達の 癒しと活動のスペースを提供します。

### ワークハウス雲とは

ワークハウス雲は、心身に障害のある人達、不登校のため学校生活のできない青年達、社会に適応できないために就労できない人達が、共に活動することに より互いに成長し、意欲を持って生活を楽しむことができるようにするための親睦と社会復帰のプログラムを計画・実行することを目的として活動します。

代表である渡邊さんは、28年間神奈川県で学校の教師として障害児教育に携わった後、学校卒業後も、障害をもった人達が有意義に生活できる居場所をつくってあげたいという思いで、当時、障害者支援施設が少なかった岩手に引越し、団体を設立。

現在まで、利用者が手作りした織物やアクリルタワシやエプロンを産直センターで販売した他、しいたけ

や桑の栽培、月に一度まちの中心地でフリーマーケットを開催し、地域の人との交流も行ってきました。

### 心を込めて配達します 「雲の弁当屋」

ひきこもりの人には、

家族や周りの人達が理解し、その人の話を一生懸命聞いてあげることが必要です。」と渡邊さん。この施設の利用者は皆、辛い経験をしてきた人達です。初めて施設を訪れた人には、最初に相手のありのままを受け入れる「受容」をしてあげること。心が通い合うようになってきたら少しずつこちらの要求を伝えてゆき、ゆっくりと職業訓練も開始。そのため、作業所は常日頃から皆が認め合う雰囲気を作ってあげるよう心掛けています。

毎週火曜日と金曜日のお昼は、お弁当配達の日となっております。作業所内で働く栄養士が作った栄養満点のおかずを、利用者が盛り付け、袋入れ、箱詰めした後、東山町内約60個（30ヶ所）を利用者13人で分担して配達。高齢者の健康に配慮し、おかずは揚げ物をできるだけ使いません。配達先のお宅では、最初はお互いにぎこちない会話でも、徐々に打ち解け世間話をするようになり、「今日はこんなお話ができたよ！」と帰宅してから嬉しそうに話すそうです。こうした地域の人の繋がりが仕事をすすめる励みにもなっています。

代表の渡邊さんは、「ひきこもりの人達は、家で怠けているわけではありません。心に抱えているストレスが重すぎて、世の中に出れなくなっているんです。本当はみんな、社会の人と繋がりたいと思っていることを知ってほしい。」とお話していました。



# 歩が行く

センタースタッフの千葉歩の体験レポートです。

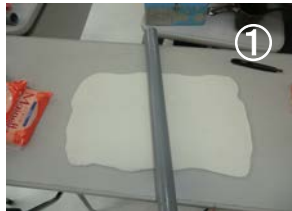
今月は、「せんまや夢灯りの会」に参加し「キャンドルスタンド製作」に挑戦してきました。キャンドルスタンド製作が千厩地域で始まったのは、同会の代表を務める菅原喜久子さんが、平成6年、「いわて夢灯り協議会」の代表である寺沢氏との交流があったことがきっかけです。平成8年から「輝く女性の会」の活動の一環として、キャンドルスタンド製作を行なってきましたが、同会は解散。このまま絶やすことはできないという思いから、「せんまや夢灯りの会」を3年前に発足。現在、会員は12名で一関市内の小・中学校をはじめ、子ども会▽老人クラブ▽地域自治会などで、キャンドルスタンド製作の指導を行なっているということです。

## 夢灯りとは・・・

ひとりひとりが、自分だけの手作りキャンドルスタンドを持ち寄りローソクの灯りをともし、心豊かなひとときを過ごす行事です。その「灯り」は自分だけのオリジナル。まさに自分の心に「灯り」がともされ、見る人の心も癒してくれるのです。

## 世界にひとつだけのキャンドルスタンド

①専用の石粉粘土を一人2~3個使用。粘土を丸棒で延ばし、厚さ3~4mm横40mm縦25mmほどの長方形に形を整えていきます。粘土は少し固めで、とても力が入ります。翌日、腕が筋肉痛になりました。



②粘土が長方形に整ったら、明かり窓を作っていきます。丸や四角・ハートや花柄など自分の好きな形で粘土をくり抜いていきます。明かり窓は少なすぎるとローソクを灯した際きれいにでません。数が多いほど明るさが増すとのこと。家にあるフォークや、楊枝・おろし金などで模様をつけ、切り抜いた型を貼り付けるなどし、細工を施します。



③1日以上たち、粘土が半乾きになったらそつと組み立てていきます。キャンドルスタンドの基本は円柱ですが、四角・三角など工夫次第でもしろい形が作れます。

④組立の繋ぎ目がしっかり乾いたら色を塗っていきます。使用するのはアクリル絵の具。最初に、内側から塗っていきます。黄色やオレンジ色にすることで灯りが入ったとき、とても明るくきれいに輝くとのこと。外側は自分のイメージで塗っていきます。最後にラッカーを吹付け完成です。



## つながり・広がる

「以前、地域活動の一環でキャンドルスタンドの製作指導をした所、それがPTAに伝授され、さらに子どもたちに伝授されていてとても嬉しかった。こうして、つながっていくのだなと実感しました。」と語り、「キャンドルスタンドは製作者の世界に一つのオリジナル。子どもたちの発想のおもしろさには本当に驚きました。」と菅原さん。心に灯る「あかり」のような菅原さんのお話で、私も和みました。

## せんまや

### 夢灯りの会イベント

毎年1月のどんと祭をはじめ7・8月の町内夏祭り等に参加し、ふるさとに「あかり」を灯している。また、今年は、仮設住宅でも点灯する予定で、「今度は仮設住宅の方々と一緒に製作ができたなら」と語っていました。

同会は、連絡をいただければ団体や自治会・子ども会などに指導に向くとのこと。粘土料は別途。ご興味のある方は、「せんまや夢灯りの会」、または、「いちのせき市民活動センター」千厩サテライト」までご連絡下さい。



# イベント・ボランティア情報



いちのせき市民活動センターでは、一関市内で活動する市民活動団体や企業で行うイベントの情報やボランティア募集の情報をお待ちしております。

TEL & FAX 0191-26-6400 ☒ center-i@tempo.ocn.ne.jp



## 北上川 川っ子まつり

地域を流れる川への親しみや、川を慈しむ心を育むことを目的に、川と触れ合う「川っ子まつり」を開催します。  
内容：長生丸遊覧、カヌー・水上バイク体験、人間カーリング「タライでトライ!」、巨大流しそうめんなど。  
日時：平成24年7月29日(日)  
時間：9:30~15:00  
場所：川崎防災センター  
電話：0191-36-5666  
担当：NPO法人北上川サポート協会



## Eポート大会

「明日に向かってこぎだそう!」をスローガンに開催する「Eポート大会」の参加チームを募集しています。  
日時：平成24年9月2日(日)  
場所：北上大橋付近の北上川  
定員：10人1チームで60チーム  
対象：小学校5年生以上  
料金1チーム1万円  
※切：平成24年8月19日(日)  
電話：0191-36-5666  
担当：NPO法人北上川サポート協会



## ダンスパフォーマンス

コスモス舞踊研究所では、情操性豊かな人間形成を目的とした稽古に努め、その舞台発表としてダンス公演を開催します。ゲストには、一関市出身のダンサーSHUHOさんをお招きします。  
日時：平成24年9月9日(日)  
時間：会場13:30 開演14:00  
場所：藤沢町縄文ホール  
料金：1000円  
電話：0191-21-3337  
担当：コスモス舞踊研究所



## 夏バテ対策 ヨガ交流

暑さに負けないからだづくりを目指して、ヨガ体験ができる「夏バテ対策ヨガ交流」を行います。  
日時：平成24年8月21日、9月11日  
場所：川崎公民館 和室等  
内容：オリエンテーション、ヨガ、休憩、茶話会  
対象者：障がいのある方、地域住民  
持物：バスタオル、タオル  
電話：0191-43-4733  
担当：アートで明るく生きるかわさき(工房てんとう虫)



## 手話講習会

一関手話サークルひろばでは、手話講習会を開催します。一緒に手話を習って、手話を使った生活に役立ててみませんか?  
日時：毎週火曜日  
時間：19:00~20:30  
場所：一関市総合福祉センター  
料金：年間3600円  
持物：不要  
電話：0191-23-6020  
担当：一関市手話サークルひろば



## 四合わせ袋 作り手募集

ひこばえを守り育て隊では、地域を支えて、時、顔、力、心を合わせてつくる「四合わせ袋(ハッピーボジェット)」を一緒に作ってくれる仲間を募集しています。  
日時：各自の自由な時間  
場所：各自の自由な場所  
電話：0191-21-3086  
報酬：売上の三分の二  
申込：不要  
持物：はぎれ(柄は自由)  
担当：葉澤

## 日本財団 聴覚障害者向け遠隔通訳支援

これまで、仮設住宅入居に必要なライフラインの開通手続きや支給生活家電セットの納入日時の調整なども当事業の代理電話支援が担いました。

このサービスは、様々な通信手段(FAX、メール、チャット、テレビ電話)を使って、聴覚障がい者からの依頼を受けて代わりに電話をかけ、電話の音声を手話または文字で通訳し、やりとりすることで、聴覚障がい者と一般社会との情報コミュニケーションの架け橋を担っています。

平成23年9月より日本財団は、「東日本大震災被災地聴覚障害者向け遠隔情報・コミュニケーション支援センター」を立ち上げました。

### 聴覚障がい者のための遠隔通訳支援

日本財団 遠隔情報・コミュニケーション支援センター(FAX: 0120-522-1899) メール: nf\_enkaku@plustoice.jp

さらに福島県では、相馬、南相馬の各市役所障がい福祉係に、それぞれ通訳用端末iPad(アイパッド)を設置し、東京の通訳オペレーターが、来庁した聴覚障がい者と市職員間のコミュニケーションを遠隔で取り持っています。主な対象者は、岩手県、宮城県、福島県の被災地三県に住む聴覚障がい者で、登録をすることでこのサービスを無料で利用することができます。聴覚に障がいをお持ちの方はもちろんのこと、お知り合いに聴覚障がい者のいらっしゃる方は、ぜひこの情報をお伝えください。